

オンライン空間と現実世界をつないで、様々な問題が解決する暮らしやすい社会



未来を生きる子どもを「今育てている」という意識

今後、ICTの一層の発展により、今以上に異なる文化・考え方や多様な性を受容し、協働して物事を進めていく世の中がやってきます。一方では、人間関係が希薄になってきており、さらに核家族が進むとともに、兄弟姉妹が少ない家庭が増えたことで異年齢間で切磋琢磨する機会が減少しています。そのような中、「人は人によって良き人になる」、「地域の子どもは地域で育てる」といった昔から大切にされていることを再認識することも大切だと考えます。心豊かでたくましい鹿屋つ子を育てるため、寺子屋事業、子ども会の活性化、親と子の20分間読書運動等もさらに推進したいと考えます。

また、心が豊かでたくましく生きる子どもたちを育てたいと思っています。その基盤として育てるべきは学力とともに心や体の健康です。社会がどのように進展していくのかわからない中でその変化に対応できる人を育て、ICTと共に生き抜いていく力を付けていくことが重要だと思えます。

時代は常に進んでいます。誰も経験したことのない先の時代で生きる子どもを「今育てている」という意識をもって教育が進化していかなければ未来を担う人材の育成はできません。そのためには、今までの経験で得たものだけではなく、試行錯誤しながらも、ICT教育を含め、挑戦し続ける鹿屋市の教育を進めていきたいです。

将来を見据えて「教育」も常に挑戦が必要で

キーワードはICTと従来の優れた教育の「ベストミックス」

世の中が Society 5.0 へと大きく変化していく中で「将来を生きる子どもたちにどんな力をつけなければいいのか」というのは教育の抱える大きな課題の一つです。一人一台のタブレットが普及され、今教育が大きく変わろうとしています。大切なのは ICT 機器を使うことが目的ではなく、上手に活用しつつ、これまでの優れた教育実践と「ベストミックス」させ、子どもに力をつけることです。

鹿屋市は電子黒板の導入を以前より進めており、今回の GIGA スクール構想に対してスムーズに対応できる環境が整っていました。そのような中で子どもたちには生きる力をつけるため、学校には二つのことを意識してほしいと考えています。一つは、自分の自己実現、つまり夢を叶え幸せになる基礎・基盤を育成すること。もう一つは地域や社会・世界に貢献する態度を育むこ

市教育委員会 中野 健作 教育長



とです。そのために学校や、現場の先生たちをどのように支援していくかが私たち教育委員会に問われていると考えています。

地域にあった「鹿屋型」の教育が必要とされています

新型コロナウイルスの影響で、昨年は全国一斉の臨時休校もありました。しかし、このような状況でも子どもたちと連携・授業ができる可能性を ICT 教育は示しました。各家庭のインターネット環境の整備などの課題はありますが、本市の学校でも現在、先進的に情報活用能力や正しい使い方に関する検討、タブレットの持ち帰りなど、新しい教育にチャレンジしています。他県等での先進的な取組みをそのまま取り入れるのではなく、地域性に合った教育の「鹿屋型」を作らなければなりません。

進化する教育に対する挑戦

新しい教育を取り入れながら、さらに良い教育を目指すため、現場では日々研究が繰り返されています。

- 1 市では学校での GIGA スクール支援として5人の GIGA サポーターを配置。市内各校を巡回して児童等の端末操作や機器動作の確認などの支援を行う。
- 2 学校では先生同士で効果的な ICT 機器の利用法などを共有する研修が定期的に行われており、日々研鑽を積む。

3年1組の担任の先生がリモートで学年全体の授業を進めているよ!!



◀学校内ネットワークを活用して、3年生の3クラス全員で、同時にオンライン授業が行われました。現在はこのような離れていても授業が受けられる環境が整ってきています。

アウトプット中心の授業が増えてきました



GIGA スクールサポーター 高良 路奈 さん

(株式会社口ポネット・コミュニケーションズ)

現在、市内の小・中学校に GIGA スクールの導入や運用支援を行っています。設備の導入を今年の4月から進め、5月からは児童・生徒さんのタブレット操作補助や、先生方たちの運用方法の支援を行ってきました。児童や生徒さんは普段から電子機器に触れる機会も多いのか飲み込みが早く、操作をすぐに覚えてくれました。デジタルを活用して色々な子どもが意見を言うアウトプット中心の授業が多くて、時代の変化を感じています。



2組・3組はそれぞれの担任の先生が上手に補佐をして進めているね!

